市内循環ワゴンをもっと便利に

塚越 洋一 議員

問 交通利便性を高めることによる生活の質の向上、公共施設利用の利便性、地域経済への波及などの政策効果は。

答 利用者へのアンケート結果では、買い物、通院、公共施設の順に利用が多いことが確認された。

外出の機会が増え生活の質の向上による効果や、市の東西を結ぶEコースの新設により市の東西の一体性が高まる効果も出ている。

問 費用対効果を中長期的視点での投資とみるのか。

答 交通利便性が高まり、住みやすさが向上することから、定住化促進という観点からも投資であると考える。効果を検証しながら、更なる利便性向上に努め、コースとダイヤの見直しを図ることにより、持続可能な公共交通ネットワークの維持・存続を実現して行きたいと考えている。

利用者が増えているふじみん号

新しくできる市立博物館前に横断歩道を

問 信号機のある西消防署前から文京学院大学までの区間が長く、スピードが出ていて車が止まってくれない。横断歩道を設置できないか。

答 住民から要望が寄せられ警察と相談してきた。市から警察署に要望している。

テレワークの推進を

小林 憲人 議員

問 柔軟な働き方を実現すべく、全庁的な取り組みが必要では。

答 テレワークを含め、様々な働き方について研究を進め、職員がより柔軟な働き方を選択できるよう、引き続き、職員の働き方改革を推進していく。

持続可能な介護サービスを

問 介護サービスが必要な人に必要な支援を過不足なく届けるためには、介護給付費の適正化を図ることも大切である。取り組みは。

答 重複請求などの請求誤りや不適切な給付がないかを確認している。これらの取り組みを継続実施し、費用の効率化を図り、介護保険制度の健全かつ円滑な運営に努めていく。

私道下の私設管への対策を

問 法定耐用年数を迎えつつある私設管の更新に対し、一部の所有者が不明な場合など、当事者同士でどうにもならない状況が想定される。対策は。

答 私設管について、寄附採納を受けているが、所有者が不明な場合などは受けられない。

国の動向を確認し、他市の情報収集をするとともに、採納について研究していく。

部活動の地域展開の展望

板倉 篤 議員

問 スポーツ活動地域支援事業の実績は。

答 令和6年度は5種目で66回実施、延べ1834人が参加した。令和7年度は11月末までに34回実施、延べ848人が参加している。

問 地域連携に向けたガイドラインの策定及び関係機関や地域指導者等で構成する協議体の設置の考えは。

答 既に部活動の在り方に関する方針を策定しているが、今後地域連携についても明記する改訂を行う。また、現在関係者間で成果や課題を共有する協議体を検討する事前協議に向けて調整している。

ドローンで作業効率化を

問 本市業務における活用事例は。

答 公共施設の高所点検で年1回ドローン点検を実施している。また、シティプロモーション動画でもドローン空撮を用いたことで臨場感あふれる映像となった。

様々な分野でドローンを活用

問 農業分野での活用促進に向けた取り組みは。

答 活用事例としては令和7年夏に稲作地域においてイネカメムシ防除のため農薬の広域散布が行われた。また、ドローン購入費用や水稲の広域防除に係る農薬代の一部補助も行っている。

請願 不採択 買い物クーポン券の支給を求める請願

趣旨に賛同した市民574人の署名があり、市民1人に5000円の買い物クーポン券の支給を求める請願が市議会へ提出されました。審議の結果、賛成少数で不採択となりました。

市民・都市常任委員会での主な質疑

問 令和6年度決算で約24億円の黒字とされるが、市の財政状況は。

答 実質収支は約24億円の黒字だが、実質単年度収支は約5億8,600万円の黒字にとどまり、安定した余力がある状況ではない。

問 全市民に5,000円の買い物クーポン券を支給した場合の財源規模は。

答 事務費を含め約6億円規模となり、一般財源のみでの実施は困難である。

問 基金を活用して市独自に実施する考えは。

答 財政調整基金は災害などに備える重要な財源であり、取り崩しは慎重に判断すべきである。

問 今後の物価高対策への対応は。

答 国の動向を見極め、市民生活の支援に加え、事業者支援も含めた効果的な対策を検討する。

主な反対意見

市民生活を支援する重要性は認識しているが、本請願で示される財源規模を踏まえると、現状の市財政では慎重な判断が必要である。物価高対策は市民や事業者の状況に応じた幅広い支援を検討すべきであり、国の方向性や支援規模を十分に確認することが重要である。その状況を踏まえずに基金の取り崩しは時期尚早である。なお、買い物クーポン券支給そのものを否定するものではなく、費用対効果を踏まえ、最も適切な支援が求められる。

主な賛成意見

長引く物価高は市民の暮らしに深刻な影響を与えており、市が主体的に市民生活を支えることは重要な役割である。全市民への買い物クーポン券支給は、家計の負担軽減に加え、地域経済の循環を促す効果も期待できる。財源についても、基金は市民のために活用すべきものであり、本市の財政状況や将来負担を踏まえれば実施は可能である。国の対応を待つだけでなく、市として早急に行動すべきである。

連載企画

子どもたちに聞きました

子どもたちの夢とまちへの思い

家族で産業まつりに来ていた小学生に、将来の夢や学校生活についてインタビューしました。

Q 将来の夢やなりたい職業はありますか。

りつさん 生物学者になりたいです。生物の中でも哺乳類、人間に近い生物に興味があります。

つきさん 警察官になりたいです。
（お父さんが「えっ？かっこいいなぁ」とつぶやく）

あんさん ケーキ屋さんになりたいです。ケーキを作るのが楽しそうだから。家族で料理をすることもあります。

Q 学校生活について、何かありますか。

りつさん 先生が丁寧に授業を教えてくれるので、とても分かりやすいです。

つきさん 友達と遊ぶことと、遠足が楽しみです。授業では、図工が好きです。

あんさん 図工と体育が好きです。

荻原（おぎはら） 律（りつ）さん

広尾（ひろお） 杏（あん）さん　広尾（ひろお） 紬希（つき）さん